

おわりに

「・・・略・・・私と同じように「家族」をもっている、コミュニケーションがなければもっていないのと同じだと思うからです。共働きの家族が増え、家族そろって食事をする時間が減ったこと、電化製品の普及によって、テレビも一家に一台から一部屋に一台の家庭が増えたこと、同じ家においても、家族と一緒にいる時間が少なく、会話も極端に減り、悩みを打ち明けにくくなっていると思います。親自身も子どものSOSに気づかずに、サポートするタイミングを逃してしまうといった悪循環が招いているのではないのでしょうか。子どもは大人を見ている。ときには助けを求めます。心配してくれる、話を聞いてくれる、見ていてくれる人がそばにすることが、私たち子どもにとって、大きな支えとなります。便利さがもたらす物の豊かさも確かに必要です。しかし、これ以上に必要なのは心の豊かさです。東日本大震災のときに改めて気づいた、「人の温かさ、絆」の大切さ。これこそ日本人が世界に誇れる財産だと私は思います。

日本の未来を担うのは、間違いなく私たちです。社会から犯罪がなくなり、日本人同士寄り添い合い、助け合える国になることを私は望みます。・・・略・・・」

これは、昨年10月に行われた健全育成市民大会での、塩津中3年の岩瀬さんの意見発表の一部です(全文は本紀要51Pに掲載)。テレビや新聞等の青少年犯罪の報道を通して、日ごろ思っていることを素直に述べています。青少年の犯罪に対する子ども目線での原因推察は、私たち大人にもいくつかの示唆を与えてくれています。家族のコミュニケーションの大切さ、地域のつながりの大切さなど目新しい言葉ではありませんが、子どもの言葉だけに新鮮に映ります。

蒲郡市では、7中学校区に健全育成協議会が設置されており、それぞれの地区で年に数回、地域の子どもたちの健全育成にかかわる会議が開かれています。危険箇所に関することや交通安全に関すること、さらに地域内での子どもたちのあいさつの様子や遊びの実態などについて、密に情報交換がされています。子どもは、家庭の宝であると同時に地域の宝であるという思いが、参加していてひしひしと伝わってきました。地域の大人の子どもたちに対する思いは、日ごろの子どもたちへの声かけや見回り、それぞれの地域で行われるふれあい活動によって子どもたちにつながっています。

「子どもは、大人を見ている」と語った前述の中学生の言葉は、家族や地域の大人たちへの期待の言葉であり、その期待に応えようとしている多くの大人たちを本年度も見させていただきました。

最後に、本年度も各地域で青少年の健全育成に向けて、ふれあい活動や補導をはじめ様々な活動を展開していただいた多くの関係者の皆さまに感謝申し上げます。

＜表紙のマーク＞

平成 22 年度一般公募により決定した蒲郡市青少年健全育成地域活動のシンボルマークです。

水色は蒲郡の美しい海、オレンジは若さ明るさをイメージし、「地域の人々の手で明るく青少年を守ろう」のコンセプトで作成されています。

発行日 平成 27 年 2 月 1 日

発行 蒲郡市教育委員会

編集・印刷 蒲郡市青少年センター

〒443-8601 愛知県蒲郡市旭町 17-1

電話 0533-66-1168

製 本 親和原田プリント(株)